

定ナシ從テ本法ハ日本人ニ對シ他ノ外國人ニ比シ劣等ナル差別待遇ヲ與ヘ繼カニ條約ニ明文ノ保證ナキ農業用地ノ短期借地權ヲ認容シタル外將來ニ於テ全然土地及之ニ關スル權利ノ取得所有及相續ヲ禁止スルモノナリ而シテ本法ヲ當初ノ下院案ニ比スルニ日本人ニ對シ不動產所有ヲ禁止スルノ主旨ニ於テ兩者其軌ヲ一ニスルモ下院案ニ於テハ一般外國人ト雖モ歸化意思ヲ有效ニ表示セサル限り日本人ト同様ノ地位ニ置カレ殊ニ賃借權ニ關シテハ日本人ト他外國人トノ間ニ何等ノ差別ヲ設ケサリシモ本法ニ於テハ米國歸化法上日本人ハ歸化不能ナリトノ前提ノ下ニ露骨ニ日本人タルノ字句ヲ用ヒスシテ一般外國人ヲ歸化ノ能否ニヨリ截然二種ニ區別シ事實上當初ノ諸案ニ比シ一層顯然ト差別待遇ヲ實行セントシタルモノニシテ日米兩國間交渉ノ中心トナリタルモノハ專ラ此點ニ在リ

第二節 土地法制定前後ニ於ケル日米交渉經緯

第一、同法制定前ニ於ケル帝國政府ノ措置

一、珍田大使ト國務長官「ノックス」トノ折衝

一九一三年一月加州州會開會ノ當初在米珍田大使ハ大統領「タフト」竝ニ國務長官「ノックス」

ニ對シ從來ノ例ニ倣ヒ排日立法ノ成立ヲ阻止スル爲充分有效ナル處置ヲ採ラレムコトヲ要望シ米國政府ニ於テ之ヲ欣諾シ現ニ二月三日國務長官ヨリ加州議會ノ有力議員ニ書面ヲ送り排日法案阻止ノ必要ヲ切言シタルモ當時共和黨行政部ハ其末葉ニ際シタル爲何等積極的措置ヲ採ルニ至ラスシテ止ミタリ

二、珍田大使ト大統領「ウイルソン」ノ會見

然ルニ同年三月「ウイルソン」ヲ首長トスル民主黨行政部成リタル後ニ於テモ加州州會ノ形勢ハ固ヨリ樂觀ヲ許ササリシヲ以テ帝國政府ニ於テハ本問題ニ對スル米國政府ノ切實ナル注意ヲ喚起スルノ必要ヲ認メ新大統領就任ノ翌日即三月五日珍田大使ヲシテ同大統領ニ謁見セシメ太平洋沿岸殊ニ加州議會ニ於テ現下幾多ノ排日法案ノ繫屬セルハ帝國政府ノ深く遺憾トスル所ニシテ萬一之等法案ニシテ成立スルカ如キコトアラハ其影響ノ重大ナル洵ニ寒心ニ堪ヘサルヲ以テ新行政部ニ於テモ從來ノ行政部ト同シク兩國ノ親交ニ顧ミ適當ノ手段ヲ盡シ之等法案ノ成立ヲ阻止スルニ努力セラレムコトヲ要望スル旨縷述セシメタルニ大統領ハ米國憲法上中央政府ハ各州ノ固有ノ權利ニ干涉スルヲ得サルモ中央政府トシテ及フ限りノ權力ヲ利用シ帝國政府ノ期待ニ副ハムカ爲ニ斡旋スルヲ辭セスト言明セリ

三、珍田大使ト國務長官「ブライアン」トノ折衝

次テ三月十三日珍田大使ハ國務長官「ブライアン」ニ面會シ日本ノ希望ヲ陳述シ右ト同様ノ言明ヲ得タリ然ルニ當時加州方面ノ情勢ヲ見ルニ桑港博覽會會社ハ飽ク迄排日法案ニ反對シ之カ防止ニ全力ヲ傾注シタルノミナラス桑港商業會議所其他ノ有力ナル團體ニシテ排日立法ニ反對スルノ決議ヲ爲シタルモノ少カラス在桑港總領事ニ於テモ内密之等諸團體等ト必要ノ聯絡ヲ執リ阻止運動ニ努力スル所アリ州會前半ノ會期（一月六日開會二月四日休會）ニ於テ形勢容易ニ逆賭スルヲ許ササリシカ其後半ノ會期（三月十日再會五月十二日閉會）ニ至リ院內ニ於ケル排日議員ノ活動漸次旺トナリ竟ニ形勢急轉シテ上下兩院共ニ代表案ヲ作成シ各代表案ハ上院ニ於テハ四月十二日第二讀會ヲ通過シ下院ニ於テハ四月十五日第三讀會ヲ通過スルニ至レリ

斯ノ如ク形勢嶮惡ヲ告クルヤ在米珍田大使ハ屢次國務長官「ブライアン」ト會見シ米國政府ノ注意ヲ促ス所アリシカ同大使ハ政府ノ訓令ニヨリ四月十二日國務長官ト會見シ更ニ四月十五日大統領ニ謁見ノ上加州ニ於ケル日本人ノ發展ハ傳ヘラルルカ如キ顯著ノ進境ヲ示セルモノニアラス其所有地面積ハ極メテ狹少ニシテ何等嫌畏スヘキ事由ヲ認メサルニ拘ラス不公平ナル立法ニヨリ日本人ノ正當權利ヲ侵害セントスルハ帝國政府ノ了解ニ苦シム所ニシテ爲ニ日米兩國國交及通商交

通上ニ悲シムヘキ影響ヲ招致スルコトサヘアルヘク帝國政府ハ國家トシテノ面目問題トシテ本件ヲ重視スルモノナルコトヲ縷說シ本法案防止ノ爲米國政府ニ於テ一層ノ盡力ヲ用ヒムコトヲ要望セルカ（附屬書第三十六號）大統領及國務長官ハ孰レモ帝國政府ノ意ヲ諒トシ本件土地法案ノ正義ニ基カサルヲ認識スルモ土地所有權ノ許否カ憲法上各州ニ專屬スルノ事實ト加州知事「ジョンソン」カ進歩派ニ屬シ中央政府ト黨派ヲ異ニスルノ事情トハ彼此交錯シテ當面ノ問題ノ解決ヲ困難ナラシムルモノアルヲ辯疏シ尤モ日本ノ主張ニ對シテハ充分同情ヲ以テ考量シ其友好的解決ノ爲全力ヲ盡スヘキ決心ナルコトヲ言明スル所アリタリ

四、土地法案ト歸化權竝ニ歸化意思ノ關係

其後幾何ナラスシテ加州知事ハ國務長官ニ上下兩院案内容ト共ニ議事進行ノ現況ヲ報告シ右ニ關シ中央政府ニ於テ意見アラハ速ニ來示セムコトヲ希望スル旨電照セリ當時加州上院ニ於ケル主要論點ハ如何ナル法人ニ本法ヲ適用スヘキヤノ問題ニシテ上院第二讀會通過案ニヨレハ株主ノ多數カ第一歸化證ヲ有スル外國人ナル法人ニ對シテハ本法ヲ適用セサルコトトナリ居ルモ其後歐洲資本家ノ運動激甚ナルニ動カサレ第一歸化證ヲ有スルト否トニ拘ラス苟クモ歸化權ヲ有スル外國人カ株主ノ多數ヲ占ムル法人ニ對シ本法ノ適用ヲ除外スルノ修正案出テ茲ニ土地所有權ノ許否ハ歸

化意思ヲ標準トスヘキヤ歸化能力ヲ標準トスヘキヤノ問題起リ竟ニ加州知事ノ電照ヲ見ルニ至リタルモノノ如シ

四月十八日ニ至リ大統領ハ國務長官ヲシテ加州知事ニ電報セシメ大統領ニ於テハ加州立法權ノ獨立ヲ充分ニ認識スルモ東洋ニ於ケル友邦トノ親交ニ鑑ミ法案ヲ變更シ歸化權ノ有無ヲ以テ土地所有權許否ノ標準トナサランコトヲ勸告シ寧ロ歸化意思ノ表示ヲ其標準トナスノ優レル旨ヲ附加セリ珍田大使ハ此前後ニ於テ屢次國務長官ト面會シ本立法ニ關シ歸化權ヲ有セサル外國人云々ノ語句ヲ除クヘキヤ否ヤノ如キ字句上ノ問題ハ抑モ末節ニシテ苟クモ事實ニ於テ日本人ニ差別的待遇ヲ與フル以上ハ日米通商航海條約ノ根本的主義及精神ニ悖反スルモノナル旨ヲ反覆縷述セリ然ルニ四月二十一日加州知事ハ前記大統領ノ電報ニ對シ長文ノ陳述書ヲ發表シ本件立法ハ加州自衛上ノ必要ヨリ出タルモノニシテ而モ他州ニ先例アリ敢テ國交ニ累ヲ及ホサントスルモノニ非ス州會ハ決シテ僻見ト偏頗トノ態度ヲ採ルモノニ非サル旨ヲ公ニセルカ二十二日大統領ハ再ヒ加州知事及加州州會上下兩院議長ニ電照シ加州議會ニ於テ合衆國カ負擔スル條約上ノ義務ヲ無視シ又ハ米國民及政府ノ名譽信義ヲ毀損スルカ如キ行爲ナカランコトヲ希望シ若シ加州ニシテ市民トナルノ意思ヲ表明セサル凡テノ外國人ニ土地所有權ヲ許與セサルノ必要ヲ認ムルニ於テハ他州又ハ諸

外國ノ立法例ニ則ルヲ得ヘク濫ニ差別ヲ設クルニ於テハ必然米國政府ノ條約上ノ義務問題ヲ惹起スルニ至ルヘク大統領ハ米國ノ首長トシテ斯ル差別待遇ニ對シ抗議スルヲ以テ其責務ト信スル旨ヲ警告シタルニ即日知事ハ之ニ答ヘテ加州州會ハ中央政府ヲ困惑セシムルカ如キ立法ヲ企ツルモノニアラス中央政府ト協調シテ正當ニ自己ノ權内ニ於テ行動スヘク若シ土地法案ニシテ通過スルモ歸化權ナキ外國人ニ關シテハ其規定ハ一般的ナルヘキ旨ヲ告ケタリ

五、國務長官「ブライアン」ノ派遣

形勢益急ヲ告クルヲ見ルヤ大統領「ウイルソン」ハ加州當局ト直接協議ノ必要ヲ認メ加州知事及州會ノ同意ヲ得テ國務長官「ブライアン」ヲ加州ニ特派スルニ決シタルヲ以テ珍田大使ハ二十三日二十四日ノ兩度國務長官ヲ訪ヒ米國政府カ同長官ヲ加州ニ派遣スルハ畢竟同政府カ本問題ヲ重要視スル誠意ノ表徴ニシテ之ニ對シテハ深く謝意ヲ表スルモ本問題ニ關シ累次聲明セル帝國政府ノ態度ハ特ニ考量中ニ置カレンコトヲ望ムトテ重ネテ同長官ノ注意ヲ促セリ國務長官ハ四月二十四日華府出發同二十八日午前六時加州首都ニ着シ知事ト會談後上下兩院ハ十一時半ヨリ兩院祕密協議會ヲ開ケリ傳フル所ニヨレハ國務長官ハ右協議會ニ臨ミ一場ノ長演說ヲ試ミ差別立法ニ代ユル目的ヲ以テ大要左ノ四條ヲ提議シタルモノノ如シ即チ

- (一) 本件ノ解決ヲ外交手段ニ讓ルコト
- (二) 外國人土地所有ニ關シ調査委員ヲ任命シ解決上大統領ト協同ノ步調ヲ採ルコト
- (三) 「イリノイ」州法ノ如ク外國人土地所有期間ヲ六ケ年トシ且外國人一般ニ適用スルコト
- (四) 「コロムビア」區 (District of Columbia) ニ實施セラルルト同様外國人一般ニ適用セラルル禁止法ヲ制定スルコト

兩院祕密協議會ハ同夜再ヒ開會セラレ國務長官ハ「市民權ナキ」ナル用語ノ採用ニ關シ州會カ尙未タ充分ニ大統領ノ希望ヲ諒察セサルヲ遺憾トスル旨ノ大統領ノ來電ヲ朗讀シテ議員ノ反省ヲ促スニ努力スル所アリタルモ知事及其一派ハ固ク州權ノ獨立ヲ主張シテ動カサリシモノノ如シ翌二十九日夜半更ニ開カレタル兩院祕密協議會ノ結果加州檢事總長「ウエップ」ノ起草ニ係リ從來ノ兩院代表案ニ比シ一層排日的性質ヲ發揮セル新法案ヲ採用スルノ議ヲ決シ次テ上院ハ本會議ニ於テ同案ヲ修正案トシテ採用セリ仍テ加州知事ハ四月二十九日及三十日ノ兩度更ニ陳述書ヲ公ニシ新法ハ條約違反ニ非ス且日本國民ニノミ差別待遇ヲ與フルモノニ非ス唯既定合衆國法ニ倣ヒ各州當然ノ權限内ニ於テ必要ナル立法ヲ爲スノミナル旨ヲ述ヘ殊ニ三十日ノ陳述書ニ於テハ其排日的旗幟ヲ一層明晰ナラシムルニ至リシカ翌五月一日大統領ハ知事ニ對シ「ウエップ」案採用ニ至ラハ長

時日ニ亘リ錯綜セル爭議ノ起ルヘキヲ恐ルル旨ヲ電報シ注意スル所アリタルニ對シ知事ハ該案ノ現行條約ニ牴觸セサル旨ヲ回答シ且右ノ次第ヲ公表シ反抗的措辭ヲ以テ大統領ノ忠告ヲ斥ケタル趣ノ陳述書ヲ添ヘタリ五月二日上院ハ「ウエップ」案第三讀會ヲ開キ議事ノ進行中外交手段ニヨリ本件ノ解決ヲ得ル爲本案ヲ撤回スヘシトノ動議提起セラレタルモ之ヲ否決シ討論數時間ニ亘リ遂ニ二對三十五ノ多數ヲ以テ本案ノ通過ヲ見ルニ至リ次テ翌五月三日下午院ニ於テ本案ノ第三讀會ヲ開キ上院ト同様外交手段ニ依ラムトスルノ動議提出セラレタルモ否決セラレタルカ同日國務長官ハ再ヒ兩院協議會開會ヲ請求シ之ニ出席シテ本案ノ通過ハ國交上重大ナル結果ヲ生スヘキヲ說述シ最後ノ努力ヲ盡シタルモ其效無ク竟ニ本案ハ同夜下院ニ於テ三對七十六ノ多數ヲ以テ通過ヲ見ルニ至リ十日附ヲ以テ十一日知事ノ手許ニ廻付セラレ州會ハ十二日閉會ヲ告ケタリ加州知事ハ本案ノ通過後直チニ加州ノ成功ヲ賞讃セル陳述書ヲ發表セリ (附屬書第三十七號)

六、珍田大使ノ意見稟申

前顯ノ如ク四月中旬形勢險惡トナルヤ在米珍田大使ハ中央政府ト州知事トノ間ニ嚴存スル政治上竝ニ法律上ノ關係ヨリ大統領及國務長官ノ斡旋ニシテ奏效ノ見込ナキニ至ラハ日本側ヨリ條件ヲ提示シテ局面ノ展開ヲ計ルノ必要ナルコトヲ認メ帝國政府ニ稟申スル所アリ政府ニ於テモ考量ノ

結果

- (一) 土地法制定中止ノ交換トシテ (イ) 寫眞結婚婦人ノ渡航制限又ハ禁止ヲ行フコト又ハ (ロ) 日本ニ於ケル外國人土地所有權ニ關スル法律ヲ實施シ加州人ニ土地所有權ヲ認ムルコト
- (二) 加州土地法ノ成立ノ曉ニ於テハ (イ) 日本政府ニ於テ將ニ開カレントスル桑港博覽會參加ヲ遂行スルニ重大ナル困難アルヘキコト (ロ) 將來日本ニ於テ外國人土地所有權ニ關スル法律ヲ施行スルニ付曩ニ一九一一年日米通商航海條約改正商議ノ際同年二月二十一日附内田大使公文(附屬書第三十一號參照) 中ニ留保シタル權利ヲ加州ニ對シ行使スルノ已ムヲ得サルニ至ルコトアルヘキコトヲ正式ニ聲明シ加州官憲ノ反省ヲ促スコト
- ノ二案中先ツ第一案ニヨリ米國側ニ臨ムコトトセリ仍テ四月十九日珍田大使ハ國務長官ト會見ノ節内密且非公式ノ案トシテ右交換問題ヲ提案シ同長官ニ於テ考究スルコトトナリタルモ其後形勢益々惡化シ州知事モ明白ニ土地法ヲ支持スルノ態度ヲ示シ之ヲ動カスコト絶望トナレルヲ以テ第一案ハ勿論第二案ニヨル聲明モ其效ヲ齎スノ見込ナキ事態トナレリ

第二、州會通過後ニ於ケル帝國政府ノ抗議ト米國政府ノ辯明

一、帝國政府ノ第一回抗議書

國務長官「ブライアン」ハ其努力ヲ傾ケ大勢ヲ挽回セントシタルモ竟ニ其效ヲ奏スル所ナク五月三日加州首都ヲ發シ空シク華府ニ歸着セルカ土地法ニ對スル知事ノ裁可アルヘキハ最早疑ノ餘地ヲ存セサルニ至リタルヲ以テ帝國政府ハ米國政府ニ對シ正式ニ抗議ヲ提起スルノ必要ヲ認メ五月十日珍田大使ヲシテ我第一回抗議書(附屬書第三十八號)ヲ國務長官ニ手交セシメタルカ其要旨ハ該土地法カ本質上不當且差別的ニシテ正義公道ノ大本ニ悖反スルノミナラス現行日米通商航海條約ノ規定ニ牴觸シ且兩國條約關係ノ基礎タル修好親善ノ精神及本義ト背馳スルモノタルヲ痛論シ條約ノ明文ニ牴觸スル點ニ關シテハ日本人カ從來適法ニ取得シタル土地ノ所有權ヲ其正當相續人ニ移轉スルノ權利ヲ褫奪スルノ點其他數種ノ事項ニ互リ精細ニ論述シ兩國間ニ存スル歷史的親交關係ニ適合スヘキ解決ヲ見ンコトヲ期待スル旨ヲ說述シタルモノナリ

國務長官ハ大統領ノ命ニヨリ翌五月十一日加州知事ニ電報ヲ送り帝國政府ヨリ強硬ナル抗議ノ提出アリタルコトヲ告ケ大統領ハ米國人ト在米東洋人トノ間ノ不調ノ原因ヲ除去スルノ必要ヲ充分感知スルヲ以テ姑ク籍スニ時日ヲ以テスルニ於テハ外交の折衝ニヨリ加州ニ於ケル外國人土地所有問題ヲ處理スル爲進テ斡旋ノ勞ヲ執ルヲ辭セストノ意ヲ致シ以テ知事ヲ反省セシメ同法案ノ裁可ヲ中止セシメント試ミタルカ右ニ對シ知事ハ返電ヲ發シテ本法ノ必要ト條約違反ニアラサル旨

ヲ縷述シ假ニ同法カ條約違反又ハ差別的立法タリトスルモ其範ヲ示シタルハ中央政府ヲ初メ他ノ數州ニ在リトシ極力同法ヲ辯護シ之ヲ裁可スルノ意思ヲ表明シ次テ同月十九日遂ニ署名裁可ヲ了スルニ至レリ

二、珍田大使ト國務長官ノ談合

之ヨリ先五月十七日國務長官トノ會見ニ於テ珍田大使ハ同法案カ條約ノ條章竝ニ精神ニ牴觸スルノミナラス國內法ノ問題トシテモ憲法ニ違反スト思惟スルヲ以テ本法成立ノ曉ハ米國政府ニ於テ之カ效力ヲ消滅セシメムカ爲自ラ進テ訴訟ヲ提起スルノ措置ニ出テラレ度旨ヲ述ヘタルニ同官ハ土地法問題ハ人種問題ニアラスシテ純然タル經濟問題ナリトシ米國政府ニ於テハ條約又ハ憲法違反ノ廉アリト認メサル以上米國政府ヨリ起訴スルコト能ハス若シ條約違反ノ點アリトセハ關係私人ヨリ私法上ノ試訴ヲ起スノ外ナカルヘシト答ヘ次ニ大使ヨリ本問題解決策トシテ歸化法改正意見ヲ提出シタルニ同官ハ右ハ單ニ日本人問題ニ止マラス延テ支那人印度人問題等ニモ影響ヲ及ホス大問題ナルヲ以テ到底考量ニ上スコト能ハスト答ヘ從前ニ比シ同長官ノ態度著シク我ニ不利トナレリ此態度豹變ノ事情ヲ考察スルニ主ナル理由次ノ如シ

(一) 同官ハ加州議會及知事ノ意嚮頗ル強硬ニシテ此上之ヲ動かサント試ムルモ無益ナルノミナラ

ス黨略上及其他ノ關係ヨリ中央政府ノ立場ニ有害ナルヲ認メタルコト

(二) 閣員中檢事總長「マックレーノルズ」(James Clark McReynolds)ノ如キハ日本ノ立場ヲ支持セルモ加州出身ノ內務長官「レーン」(Franklin Knight Lane)其他二三ノ閣員ハ加州ノ行動ニ反對スルノ不利ナルヲ痛論シ閣議ノ大勢之ニ傾クニ至レルモノト推察セラルルコト

(三) 中央政府自ラ訴訟當事者トナリテ本法ノ條約及憲法違反ヲ爭フニ於テハ政府ノ内外ニ對スル責任益々重キヲ加ヘ之カ爲ニ黨略上ノ不利ハ暫ク措キ幸ニシテ勝訴トナルトキハ國際上ノ紛議ハ著シク緩和セラルヘキモ敗訴セムカ內政外交共ニ不利トナルヘキコト

(四) 歸化法改正問題ハ南部及太平洋沿岸選出議員ノ強硬ナル反對アルヘク之ニ對シ行政部ハ制止スルノ望ナク徒ニ國論ノ沸騰ト黨内ノ紛爭ヲ招クニ止マルヘキコト

次テ同月十九日ノ會見ニ於テ國務長官ハ米國政府ノ執リ得ヘキ措置トシテ大使限リニ對スル內話トシテ米國政府ニ於テハ加州法實施ノ結果日本人ノ蒙ル損害ニ對スル補償ヲ考慮スヘキコト及本問題ニ對スル訴訟提起ニ對シ米國政府ニ於テ便宜ヲ供與スルノ意嚮アルコトヲ述ヘタリ其後六月二日國務長官ト會見ノ際珍田大使ハ右ノ如ク單ニ訴訟ニ便宜ヲ供與スルノミニテハ同大使ノ到底同意シ得ル處ニアラス是非共米國政府自身ニ於テ起訴セムコトヲ希望ストテ桑港學童問題ノ際

大統領「ルーズヴェルト」ノ執リタル好意的措置ニ關スル事例ヲ指摘シ切ニ國務長官ノ考慮ヲ要望シルタモ遂ニ説得スルニ致ラサリシナリ

三、米國政府ノ回答

五月十九日加州知事ノ土地法裁可ノ報ニ接スルヤ同日國務長官ハ豫テ準備セル我抗議ニ對スル回答書（附屬書第三十九號）ヲ珍田大使ニ手交セリ其要旨ハ同法ノ加州州會繫屬中米國政府ハ其成立防止ノ爲全力ヲ傾注シタルニ竟ニ制定セラルルニ至リタルヲ遺憾トスルノ意ヲ表シ同立法ハ何等政治的意味ヲ有セス全然經濟的必要ニ基ケルコトヲ切言シ我抗議書ニ於テハ該法ノ規定ヲ日米通商條約ニ違反セルモノトナスモ同法ノ意思カ條約上ノ權利ヲ尊重シタルハ法文ノ明示スル所ニシテ若シ同法實施ノ結果條約違反ノ事實アリトセハ被害日本人ハ直チニ合衆國裁判所ニ出訴シ其權利ノ擁護ヲ請求シ得ヘキヲ述ヘ尙我提起セル他ノ諸點ニ對シ辯明ヲ加ヘ最後ニ彼我兩國間ノ強固不變ナル友好關係ハ斯ル一種ノ財産ニ對スル一州ノ經濟政策ニヨリ左右セラルルモノニ非サルヲ信スル旨附言セルモノナリ

四、帝國政府ノ第二回抗議書

前顯米國政府ノ回答ハ本法ヲ以テ敢テ條約違反ニアラストハ明言セサルモ自ラ加州州法ノ曲否ヲ

法廷ニ爭ハントスルノ意向ヲ示ササリシノミナラス何等本問題ニ關スル解決案ヲ提示スルコトナク到底帝國政府ヲ満足セシムルニ足ラサリシヲ以テ政府ハ本件條約違反ノ點ヲ是正スルハ米國政府ノ義務ト認メタルヲ以テ六月四日珍田大使ヲシテ右ニ對スル反駁トシテ第二回抗議書（附屬書第四十號）ヲ國務長官ニ提出セシメ更ニ條約違反ノ點ヲ指摘細論シテ米國政府ノ注意ヲ喚起セシメタルカ國務長官ハ該抗議ハ速ニ大統領ニ進達シ充分考慮ヲ加フヘシト述ヘ日本ニ於テ本問題ヲ國民の名譽ニ關スル問題トナスハ甚シキ誤解ニシテ本件ハ加州ニ於ケル單純ナル經濟問題ナリトノ趣旨ヲ反覆切言シタリ

尙右第二回抗議ハ其末段ニ於テ歸化權問題ト土地所有問題トノ關係ニ論及セリ然ルニ六月十二日在米珍田大使國務長官會見ノ際同長官ハ帝國政府ノ反駁書中ニ歸化權問題ニモ言及シアルモ日本人ニ歸化權ヲ認ムルノ法律改正ハ其影響極メテ廣汎ニシテ目下米國議會ノ形勢ニ顧ミ到底斷念スルノ外ナク且「ウイルソン」ハ「ルーズヴェルト」ト異ナリ通過ノ見込ナキヲ豫期シナカラ教書ヲ發シ法律改正ヲ高唱スルカ如キ無責任ナル行動ハ執ラサルヘシト述ヘタリ

五、土地法ニ關スル帝國政府ノ覺書及追加抗議書

此時ニ當リ帝國政府ハ日米兩國國交ノ大局ニ對シ我衷心ヲ披瀝シ親シク其慎重ナル考慮ヲ促スハ

大統領ノ性向ニ顧ミ本件解決上有利ナルヘキヲ思ヒ覺書（附屬書第四十一號）ヲ作成シ珍田大使ヲシテ六月五日大統領「ウイルソン」ニ謁見ノ上右趣旨ヲ述ヘ同時ニ第二回抗議ノ内容ニ就キ詳述セシメ日本ハ本件ヲ以テ國家ノ面目ト威嚴トニ關スル重要問題ト認ムル旨ヲ縷說セシメタリ該覺書ハ日米兩國ハ其地理的關係上永久相隣ノ關係ニアル運命ヲ有シ兩國民力將來經濟的竝ニ社會的ニ益々相接觸スヘキハ必至ノ勢ニシテ之ニ對シテハ互讓和協以テ永ク善隣ノ好誼ヲ全クスルコト相互ノ幸福ナルヘク從テ互ニ他ヲ遇スルニ公明正大苟モ其威信ヲ傷ケ感情ヲ害スルカ如キコトアルヘカラサルコトヲ切言シタルモノナルカ之ヲ傾聽シタル大統領ハ日米國交ノ大局ニ關シテハ特ニ大統領ノ重キヲ置ク所ナル旨ヲ宣明シタル上國務長官ト均シク本件ノ純然タル經濟問題ニシテ決シテ人種的僻見ニ基クモノニ非サルコトヲ切言シ本件ニ就テハ更ニ研究ヲ重ネ若シ條約違反ノ點ヲ發見スルニ於テハ米國政府ハ責任上當然自ラ訴訟ヲ提起スヘキ旨竝ニ訴訟ヲ提起スルコトナキ場合ニ於テモ相當理由アルニ於テハ日本人ノ爲實際ノ損害ニ對シ賠償ノ方法ヲ講スルヲ辭セサルヘキ旨開陳セリ其後帝國政府ハ加州土地法ノ條約違反問題ニ關シ第二回抗議ノ補足トシテ追加抗議書（附屬書第四十二號）ヲ七月三日珍田大使ヲシテ國務長官ニ提出セシメタルカ其際珍田大使ハ大統領カ六月五日ノ謁見ニ於テ若シ本件州法ニシテ條約違反ノ點アルヲ認ムルニ至ラハ米

國政府自ラ起訴手續ヲ執ルヘシト明言シタルコトヲ指摘シ速ニ米國政府ヨリ回答アラムコトヲ要請セリ

六、米國政府ノ回答

七月十日珍田大使ハ國務長官ノ招請ニヨリ國務省ヲ訪問シタルニ同長官ハ帝國政府ノ第二回抗議及覺書ニ對スル米國政府回答ノ草案ヲ朗讀セルカ右回答案ハ我指摘シタル諸點ニ對シ精細ニ論議ヲ試ミタル上米國政府ハ結局本件救濟案トシテ

- (一) 日本人カ起訴スル場合ニ訴訟ノ進行ニ關シ成ルヘク便宜ヲ與フヘキコト
- (二) 當然ノ被害ニ對シテハ補償ノ方法ヲ講スヘキコト
- (三) 日本人ノ所有地トシテ本法適用ノ爲價格ヲ減少スルモノアルヘキヲ慮リ所有者ノ申請ニ應ジ

本法制定前ニ於ケル市價ヲ以テ該土地ヲ政府ニ買收スヘキ方法ヲ設クヘキコト

ノ三點ヲ提議シ最後ニ移民問題ニ言及シタルモノニシテ國務長官ハ米國政府ノ權限内ニ於テハ結局右ノ外適當ノ解決案ヲ發見スル能ハサル旨ヲ述ヘタルニヨリ珍田大使ハ右回答ノ到底我ニ於テ承服シ難キモノナル旨ヲ述ヘ主要點ニ關シ縷々反駁ヲ加ヘテ引取リタルカ同月十六日國務長官ハ内示ヲ經タル右草案ニ少許ノ修正ヲ加ヘタル上第二回回答（附屬書第四十三號）及覺書（附屬書

第四十四號)トシテ正式ニ珍田大使ニ手交セリ

七、帝國政府ノ第三回抗議書

敍上ノ彼我交渉ニヨリ加州土地法問題ニ關スル米國政府ノ態度明白トナリ殘ルハ單ニ條約違反ノ一點ナルモ此點ニ關シテハ我ヨリ更ニ彼ニ明答ヲ促スモ利アルヤ否ヤ疑ハシク本件ニ對スル米國政府ノ真意ハ姑ク別問題トシ同政府ハ直チニ條約違反ニアラスト明言スルニ至ルヘキヲ以テ此際非公式ノ談話ヲ以テスルモ此點ニ付米國政府ニ追究セサルヲ得策ト爲シタルモ米國政府第二回回答ニ對シテハ辯駁スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ珍田大使ヲシテ八月二十六日國務長官ニ第三回抗議書(附屬書第四十五號)ヲ手交セシメタリ該抗議書ニ於テ日本政府ハ土地法ハ米國ト相互の待遇ノ條約ヲ有スル日本國臣民ノ地位ヲ無條約國民以下ニ貶スモノニシテ差別待遇ノ甚シキモノナルコト及日本政府ハ本立法ヲ目シテ人種の僻見ニ基クモノト認メ單ニ經濟的理由ニ基クモノト爲スヲ得サルコトヲ述ヘ本件ハ數年前解決セラレタル移民問題ト何等ノ關係ナク單ニ在米日本人ニ對スル公正平等ノ待遇ヲ要求スルニ過キサル旨ヲ說述セリ

八、彼我論點ノ比較

前顯累次ノ往復ニ於ケル日本政府ノ主張シタル法律上ノ論點及之ニ對スル米國政府ノ反駁ヲ要約スレハ次ノ如シ

日 本 側 ノ 論 點

- (一) 土地ニ關スル完全ナル所有權ハ處分權ヲ必然的ニ包含ス然ルニ本法ハ土地ノ現所有權者ヨリ相續遺贈權ヲ褫奪スルモノニシテ既得財產權ノ保護保障ヲ國民待遇ニ置キタル日米條約第一條第三項ニ違反ス

- (二) 舊日米條約第一條ハ處分權ニ付國民待遇並ニ最惠國待遇ヲ保障シタリ權利ノ存在ハ權原ノ繼續的存在ヲ要セストノ原則ヲ宣明セル合衆國大審院ノ判決例(「シラック」對「シラック」事件聖書傳道協會對「ニュー・ヘブン」

米 國 側 ノ 辯 疏

- (一) 所有權ハ處分又ハ相續ニ關シ將來ニ互リ必スシモ無限且不變ノ權利ヲ伴フモノニ非ス所有權カ法律ノ變更ニヨリ一部又ハ全部ノ外國人ニ土地ノ購買ヲ禁スルモ該所有權ヲ侵害シタリト看倣サルルコトナシ既ニ凡テノ外國人ニ對スル讓與移轉ノ權利ヲ拒ムモ既得權ノ侵害ニ非サルヲ以テ或種ノ外國人ニ對スル同様に權利ヲ禁止スルモ之亦既得權ノ侵害ニ非ス
- (二) 上記ノ原則ハ容認スルモ既得權ノ保護ハ裁判所之ニ任スヘシ

市事件支那人排斥事件等）ニヨリ本邦人ニモ亦他ノ日本人ニ對スルト否トヲ問ハス自由ニ處分スル權利ナカルヘカラス然ルニ此處分權ヲ制限スルハ舊條約第一條ニモ反スルモノナリ

- (三) 現ニ所有スル家屋ノ相續權ヲ奪フノ條約違反ハ前顯土地ノ場合ノ通り現行條約ハ家屋其他ノ建物ノ所有ヲ認ム而シテ加州ニ於テハ取引上家屋ハ土地ト不可分ノモノナリ然ルニ本法カ土地ノ收得ヲ禁シタル爲勢ヒ家屋ノ取得ヲ事實上不可能ナラシムルモノニシテ條約第一條第一項及第三項ノ違反ナリ
- (四) 舊日米條約ノ下ニ取得保有シタル家屋ノ處分權ヲ褫奪スルハ條約違反タルコト前段土地

(三) 前顯 (一) ニ對スル回答ニ同シ

(四) 右ト同シ

ノ場合ト同シ

- (五) 家屋ヲ賃借シ竝ニ居住及ヒ商業ノ目的ノ爲土地ヲ賃借スルノ權利ハ日米條約第一條第一項ニ之ヲ認ム随ツテ現ニ存スル土地家屋ノ賃借權ノ相續遺贈ヲ禁スルハ日米條約第一條第一項及第三項ニ違反ス

- (六) 會社株式ノ賣買ニヨリ何時其株券ノ歸化能力ナキ外國人（例ヘハ支那人）ノ所有トナリ會社所有ノ不動産沒收セラルルヤ計ルヘカラス爲ニ日本人ノ株主ハ不識不知ノ間ニ危險ノ地位ニ陷ルモノニシテ本法ハ日米條約第一條第一項及第十四條ニ違反ス

- (七) 會社解散ノ場合ニ其現ニ所有スル不動産ヲ其社員ニ分配スルコトニ決シタル時ニ於テ日

- (六) 會社ニ關スル錯雜セル問題ハ裁判所ノ審議ニ附スルヲ適當トス會社ノ權利特權及免除ハ自然人ト同一ノ範圍ヲ有スルモノニ非ス

本人社員ハ差別的ニ土地ノ分配ヲ受クルコトヲ得ス之既得權ノ侵害ニシテ日米條約第一條第三項ニ違反ス

(八) 日米兩國カ無條約トナレル場合ニ歸化權アル外國人ハ不動産所有ノ權利ニ關シ何等變更セラルルコトナキニ反シ日本人ハ現ニ條約ニヨリ保障セラルル一切ノ權利ヲ失フ

(九) 均等待遇ノ原則ハ通商條約ノ基調ナリ然ルニ本法ハ國際關係ニ於テ外國人ニ與フルニ內國民又ハ最惠國民待遇ヲ以テスルヲ通則トスル事項ニ關シ日本人ニ對シ米國人竝ニ他外國人ニ比シ劣等ナル待遇ヲ與フルモノニシテ日米條約ノ精神ニ背反ス

(八) 兩國カ無條約關係トナリタル場合ニ於テモ條約ニヨリ現ニ保障セラルル通商交通ノ權利ニシテ日本人ノ正當ニ享有シタルモノノ保障ハ合衆國政府其責ニ當ルヘシ

(九) 外國人土地所有問題カ最惠國民待遇ノ事項トシテ取扱ハレタルハ合衆國ノ慣行上稀有ニ屬ス合衆國ノ締結セル條約中最惠國民待遇ノ條項ハ殆ト總テノ場合ニ於テ通商航海ノ事項ニ關ス

第三節 日米協約締結問題

第一、珍田大使ト國務長官「ブライアン」ノ協議

一、帝國政府ノ方針

前顯交渉ノ經緯ニヨリテ明カナルカ如ク米國政府ハ加州土地法問題ノ解決案トシテハ單ニ損害補償其他ノ件ヲ提唱シタルニ過キスシテ又該法カ條約違反ナリヤ否ヤノ問題ニ關シテモ何等責任アル斷案ヲ下ササリシヲ以テ帝國政府ハ同一ノ徑路ニ依リ類似ノ論辯ヲ幾度試ムルモ到底我目的ヲ達スルコト不可能ナルコト明カナルヲ認識スルニ至レリ然ルニ本問題ニ關シ我方ニ於テ試訴ヲ提起シ之ニ勝ヲ制ストスルモ其勝訴ノ結果ハ單ニ土地法中我方ニ於テ條約違反ナリト唱ヘ居ル事項ノ除去ヲ見ルニ止マリ日本人ヨリ土地所有權ヲ奪ハントスル該法ノ目的ハ依然トシテ達セラルヘク農業用土地ノ賃借權ノ如キ何時褫奪セラルルヤモ計リ難ク畢竟其原由ハ條約ノ不備ニ基クモノナレハ本問題ノ解決ニ當リテハ米國ニ於ケル日本人ノ立場ニ關シ將來ヲ確保スヘキ協約ヲ彼我ノ間ニ取結ヒ現行條約ノ缺陷ヲ補フヲ以テ極テ緊要且適切ナル措置ト認メ其方策ニ關シ反覆攻究ヲ重ネタルニ國務長官カ屢次珍田大使ニ陳ヘタル所見ニ徴スルモ此際根本問題タル歸化問題ヲ提出